市町村合併調査研究特別委員会

平成16年12月16日午前9時00分から第一会議室で開かれた。

1. 出席委員

◎吉川 勝義	○小野 隆雄	嶋田 善行	松田 正
飯高 昭二	西谷 剛周	森河 昌之	坂口 徹
浦野 圭司	三木 誓士	木田 守彦	木澤 正男
里川宜志子	中西 和夫	中川 靖広	

浅井議長

2. 理事者出席者

町 長	小城 利重	助 役	芳村 是
収 入 役	中野 秀樹	総 務 部 長	植村 哲男
企画財政課長	藤原 伸宏	同 課 長 補 佐	山崎 篤
同 課 長 補 佐	西巻 昭男	同 係 長	福居 哲也

3. 会議の書記

議会事務局長	浦口 隆	同 係 長	猪川 恭弘
--------	------	-------	-------

4. 審査事項

別紙の通り

委員長 開会（午前9時00分）
署名委員 小野委員、坂口委員

委員長 皆さん、おはようございます。全委員出席されておりますので、ただいまより市町村合併調査研究特別委員会を開会します。

委員長 それでは本日の会議をはじめます。
はじめに町長のご挨拶をお受けいたします。小城町長

（ 町長挨拶 ）

委員長 次に、本日の委員会の会議録署名委員を私より指名いたします。
署名委員に、小野委員、坂口委員のお二人を指名いたします。両委員にはよろしく願いいたします。

委員長 それでは、レジメに従いまして審議を進めてまいります。
市町村合併について、はじめに、12月5日に執行されました斑鳩町の合併についての意思を問う住民投票の結果について、委員皆様にはご承知をいただいておりますが、理事者の方から報告をいただきたいと思っております。藤原企画財政課長

企画財政課長 それでは、去る12月5日に執行いたしました、斑鳩町の合併についての意志を問う住民投票の開票結果について、ご報告させていただきます。

お手元の資料をご覧いただきたいと思っております。投票者総数は14,308人で、住民投票日当日の有資格者数は23,025人で行われました。確定いたしました投票率は62.14%でございます。各選択肢の得票数は、合併に賛成するが3,082票、合併に反対するが11,122票で行われました。以上、ご報告申し上げます。

委員長 報告事項について質疑等はありませんか。

小野委員 議会からの提案での条例でありましたが、執行する責任で理事者側もいろいろ努力していただきまして、このような投票率を確保していただきましたことについて、まず、条例を制定した議員のひとりとして感謝申し上げます。

その中で、この場所で聞くのが妥当なのかどうか、疑問があるのですが、永住外国人の中で、何人おられて、その内の何人が投票の意思表示をされたのか、教えていただきたいと思います。

企画財政課長 永住外国人の方の中で、この申請の出来る方、登録の出来る方につきましては69人ございました。その内、16人の方の申請を受付けて、登録をしております。

小野委員 という事は、陳情を受けて条例改正に踏み切った訳なんですけど、その割には率としては少ないと思いますが、その事について、執行された理事者側としてはどのように考えておられるのか、何も仕方がないということであれば、それでも結構ですが、どのように考えておられるのか。

総務部長 先程申し上げましたように、69の方が登録できるという中で、16人ということで、それは、そういった方の、それぞれの意志の判断によって、されたということであろうと思います。我々としてはそれをどう評価するかとなると、評価の仕方は難しいですので、そういう事として考えております。

小野委員 定住外国人は斑鳩町に何名おられるのですか。

企画財政課長 いわゆる定住外国人につきましては、11月末現在の数字でございますが、34人ございました。

小野委員 当然、条例の中には定住外国人は排除していますので、当然、そういう手続きは追われなかったというのが、当然なんです、その事について、条例が制定された時点で執行側としては何ら議論はされなかったのですか。

総務部長 その関係につきましては、条例につきましては議会からお出しいただいたということで、我々としてはそれを受けて、執行するという立場にあった訳でございますので、特段、その関係については議論はいたしておりません。

小野委員 何か分からないことをしましたが、私はこの問題についての、議事録として斑鳩町議会でこういう質問があつて、このような答弁があつたということだけ残したいと思ひましたので質問しました。終わります。

委員長 他にございませんか。

委員長 ないようでございますので、次に、住民投票の結果を受けて、町長の考え方を改めてお聞かせいただきたいと思ひます。小城町長

町 長 先程、担当からご報告いたしましたように、「斑鳩町の合併についての意思を問う住民投票」において、62.14%という高い投票率となり多くの町民の方が合併問題に関心を寄せられたこと、また、投票者の8割近い方が合併に反対の意思を示されたことにつきまして、重く厳粛に受け止めております。

私は、この投票結果を踏まえ、町民皆さんの意思を尊重し、7町の合併については行わないこととし、合併協議会を脱退することといたしました。

私は、一般質問のなかでもお答えさせていただきましたように、斑鳩町は単独町制で存続していくべきであると考えております。

そのためにも、歳入歳出全般にわたる抜本的な見直しを行い、歳入規模に見合った財政構造への転換を図り、弾力的で安定した行財政基盤を確立することが重要であると考えております。

特に財政の健全化に向けては、全庁一丸となって、第3次斑鳩町行政改革大綱を着実に実行して、その取り組みを行ってまいりたいと考えております。

また、これら改革の実行にあたっては、行政サービスと負担のあり方など、議員皆さま方をはじめ、住民の皆さんのご理解と協力が必要となってまいりますことから、人件費の削減や組織・機構の簡素合理化など、自ら厳しい内部努力も同時に行っていると考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長 町長の方から報告がありましたが、委員の皆さんから質疑等がありましたらお受けしてまいります。

西谷委員 町長の今の中で、単独で行く中では行財政の見直しということで、おっしゃっていたんですが、具体的に、一般質問でも言いましたように、例えば、我々が普通に国会などを見ていて思うのは、そんなにたくさん国会議員いらぬのではないかとっても、実際、国会議員は自分の身を削るようなことはいたしませんから、そういう事にはならない。という事を見てますと、人件費の中であらゆる部分について、聖域を設けなくて、削減をしていこうと思ったら、客観的に利害関係のない人が、客観的な目で町政全体を見てもらうような、そういう検討をする組織というのが私は必要だと思いますし、それが住民の協力してもらえる声になるんじゃないかなと思いますので、是非ともそういう組織を作って、検討していただきたいと思うのですが、その辺について再度、町長の考えをお聞きしたいと思います。

町長 一般質問でもお答えさせていただきましたように、住民の方々のご意見も十分に聞いてまいりますという中で、ある程度、私をはじめ、

理事者側の関係について、具体的にどうしていくかという事を基本に持っていく。そして、住民の方々の貴重なご意見をいただく中で、決断をしてまいることが一番大事だろうと思います。特に、さしあたって、まず来年度からの事については、今、私の方としては管理職の給与カット、あるいは、管理職手当の何%カットなどについては、今、考えていますし、その後については17年度中に、今、西谷委員の一般質問と今のご意見のように、我々としては真摯に受け止めながら、一般の町民の方々の声を聞かせていただいて、そういう専門の方もおられますし、また、斑鳩町の中にも大阪市や公務員としてやってこられた方もおられますから、そういうことも踏まえて、十二分にご意見をいただきながら、判断をしてまいりたいと思っております。

委員長 他にございませんか。

小野委員 次の段階の議論はまた、これからさせていただくということで、少し確認させていただきたいのですが、町長は今までの中で、この合併問題で、法定協を離脱ということで、これは致し方ないと私はその様に思っております。その中で、色々聞えてくる中で、町長は斑鳩町という名前を大事にしたいとか、いう事もよく聞かせていただいております。その中で法定協に行っている私も含めて、確認事項の中で、私は斑鳩町という名前は残るという判断をしていましたし、町長は何か、この合併によって斑鳩町という名前が消えるというような感覚で話をされていたんじゃないかなと思うのですが、今の合併、法定協との協定の中で、合併をすれば斑鳩町という名前は消えるというように考えておられるのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

町長 私は平成9年の町長選挙の立候補の時にも申し上げた様に、斑鳩市構想というのは、そこにひとつ含まれている訳でございまして、斑鳩が残る残らない、小野委員がご指摘のように、私は頭に斑鳩というものが、日本書紀にうたわれた斑鳩というものを残していきたいという

気持ちがある訳でございまして、そういう事を踏まえる中で、世界遺産に登録された、この斑鳩というのはやはり、単独でされているというのはなかなかない訳です。姫路城の姫路、斑鳩と、あとはない訳ですから、考えますと、京都にしても、奈良にしても、部分的な登録遺産ですから、私は第1号として、平成5年、1993年に登録されたというのは一番誇りに思いながら、そういう事を踏まえて、この流れは平成9年から私ははっきりと申し上げてきておる訳でございまして、そういう、ご理解を願いたいと思います。

小野委員 町長は、ずっとそういう、どちらでも取れるような話をしておられて、私が今聞いているのは、端的に答えてください。今の法定協議会が進んだ場合、確認事項、確定事項に基づいて進んだ場合、斑鳩町という名前が消えたんですか、消えなかったんですか、どちらか答えてください。

町長 私は斑鳩というのはなくなっておると思います。

小野委員 それは法定協議会に1号委員として参加されておって、確定事項、町名については各町で調整すると、そういう確認をした時にも町長は居られたのか、欠席されていたのかどうか分かりませんが、一応、法定協議会の中では、それで満場一致で確定したんです。その事の認識が、町長、なぜそういう事になるんですか。おかしいでしょ。そして、それを確実なものにするために、私はこの合併特別委員会で、一般質問でも言いました。260条に基づいて議会がその町名については、字名については決定するんだから、どうですかと、ここでも聞いて、そうしたら、皆さんは斑鳩町は残そうと。だから、西和市斑鳩町法隆寺何丁目ということで、これはみんなにも確認しておるんですよ。だけどそれは残らないというのは、町長どういうことですか。

町長 私は4月かいつかの、特別委員会の時に、小野委員から、上に西和

市、下に斑鳩というのは、その委員の中にもおかしいじゃないかという方もあったと私は記憶しております。

おっしゃるように、市名の時にも斑鳩、残りますよと言って、市名しましたと。そうしたら町長、実際、斑鳩と言うのは頭に来るんですか、そういう事をはっきりとおっしゃらないものだから、斑鳩残りますよと、我々が申し上げているのは、地名と所在地と、そういう事を一番議論で難しい問題であろうという事で、ずっと、申し上げてきたという事でございますから、私はそういう点では斑鳩というのは、頭に当然くる事であって、私は西和市斑鳩というのは、そういう事については残る残らないの問題ではないと思います。

小野委員　これ以上言っても、全く話にならない。ひとつの町長として、しかも法定協議会の委員として恥ずかしいです。それでそういう事が、回ってましたから、はっきり言って、投票のあとで、聞かせてもらった中で、生駒郡西和市法隆寺になるんだから、だめだと言った人もいるんです。どういう認識なんですか。斑鳩町が残るということは、斑鳩町は西和市の下に残るんです。だから、町長は斑鳩という名前は大事にしないとイケないとか、色々話を言っておられる。そうしたら、これは残るのだという事が、なぜそれが言えないのですか。小委員会の中で議論したら、余計にややこしくなるから言わないけど、みんなが、15人の中の14人までが各町の名前を残そうということで、合併も対等合併だと。私は今後、今の合併を逃がしたら、斑鳩町という名前は消える可能性がありますと、今の合併をすれば斑鳩町という名前は、皆さんが愛しておられるんですから、愛しておられるかどうか知らないけど、その名前が残るんですよと話をしておったんです。だけど、町長のそういう曖昧な認識、それによって私は住民の方は誤解された。ある程度の方は誤解されていると思う。だからその点だけは、この場で、これもきちっと、合併の特別委員会の議事録として残していきます。町長は、今の合併協議の中で、各町に町名は調整するというように、きちっとできた、その事の認識がされておられなかった。そ

の様にだけ、申し上げておきます。

西谷委員

今のを聞いていて、要は、噛合わないなと思った。町長は少なくとも一番最初に斑鳩市、それが町名を残す事であって、西和市斑鳩町では、単に町長が思われるような、斑鳩が残ったということにならない、単にそういう議論だと思う。我々が、この中でずっと、私も住民にあっちこっち聞かれましたし、その都度説明をしていく中で、確かに斑鳩町に憧れて、他所から来られた人が斑鳩町が西和市みたいな、歴史のないような、或いは、どこから来られたんですか、西和市と言われて、分からないような市になるのは、そういう名称は嫌だという話がありました。それと、家庭の中で、合併協の地名を西和市と決めるまでのプロセスを見て、7町合併だったらこういう形で決まっていくなんだというのが、一番最初に公募した時には旧の町名を外す。それで、たまたまその中で、次に既存の斑鳩町や三郷町や上牧町や王寺町やという名前を抜いた中で、そうしたら全国でするのかなと思ったら、この地域の中だけである。次に、そうしたら、そこで全国的に一番有名な法隆寺市というのが一番投票が多かった。だけど、その中で上位3つの内から選んで、結果として西和市となったという、こういうプロセスの中では、少なくとも斑鳩町というのは合併になったら当然のことながら、合併になったら7分の1の部分の中では、なかなか斑鳩町の意見というのは聞き入れられないのではないかと、或いは、どうも遠いところで議論されているようなという部分が、私は住民の皆さんが実感された、そういう声も相当聞きました。だから、行政は身近な方がいいというのが、私が斑鳩町内を歩いた中での住民の皆さんの声でした。たまたま、こういう合併協議会が出来た事によって、斑鳩町も財政難だけど、他にももっと酷いという言い方は適切ではありませんが、もっと状況の悪いところもあると言うのも分られましたし、住民の皆さんはそれはそれなりに、今の斑鳩町の現状、或いは、7町合併の財政をされる中では、私は非常に参考になったし、それはそれなりに意義があったと思います。幸いな事に、これほどの大差がつかしました

から、単独で行ったからと言って、合併に賛成の方と反対の方の住民の中の対立をするような事も、数字としては私はないだろうし、そういう面では、非常にスムーズに行けるんじゃないかなと言う感じはいたしております。以上です。

小野委員 法定協議会の設置をどのようにしてやったか、それに基づいて法定協議会の内容を住民に知らせるのが私達、議員の役目ですよ。その点では私もその委員として、皆さんに説明が不足したのかなと、理解してもらい難かったのかなと、その中で私は今、指摘したのは町長に指摘したのは、町長、今の法定協議会で斑鳩町という名前が残るんだと言うことを、だけど、住民には斑鳩町という名前は無くなるんだと、そういうことなんです。それが斑鳩市でなかったらいけないと言うような議論は、法定協議会の小委員会の傍聴でもされたら分かります。どんな議論をしていたのかということ。その委員長報告の中でも、そして皆さんが対等合併なんだと、今は対等合併という事を決めてきているんだと、順番を追ってきているんだと、全国に聞いた方がいいという意見もあったんです。だけど、経費的にどうなるんだと、それらの事をみんな踏まえて、そうしたら7町の住民でいいと、その中で法定協議会で決める。そういう外から見たような形を言われる様では、全くだめです。それと、その事で町長にどの様に思われていたのかだけ聞きたかったのです。今の法定協議会で決めてきた事で、斑鳩町という名前は残るのか、残らないのかだけ聞かせてもらおうと、町長は残らないと判断した。斑鳩市とか、市へ残すというような話は平成13年9月にも斑鳩市構想、なぜ言ったんだということは、本会議で松田議員の一般質問に答えておられるんですよ。それは3町が消極的だから、4町でもやるぞと、4町でやる時は斑鳩市やぞというような牽制を打ったという、そういう話をしておられる。だからこそ、私は斑鳩市という話は別の問題で、そういう話を住民がされたら、それは対等合併でこういう具合になっているんだと説明するのが私達、議員であって、何も住民が、そういう具合に解釈をしておられるという声を聞

くのが、議員でもありますが、それを説明するのがまちづくりをつけて、説明するのが私達の役目です。それで、もうひとつ、これは次の段階で話をしようとしたのですが、今、一般質問でも町長は基金を取り崩していきますという事です。また、新聞報道で、10年先、20年先には小さなまちでよかったと思う、必ず思ってもらえるというような記事も見ました。私は、今、離脱という事は致し方ないと、条例に基づいてされるし、今、西谷委員がおっしゃったように、これだけの差が空いてますから、異論ないんです。その時の10年後の斑鳩町は、それこそ、今、合併議論のところに、基金が少ない、借金の多い町と合併してどうするんだというような議論もありました。基金を取り崩したら、何年もつんですか。基金は今まで、非常時のために貯めていた基金なんです、貯金なんです。その時点で、それこそ、この自治体が基金もない、借金も出来ない、何も出来ないような自治体を目指すのか、その事を議論したかったんです。ただ、そういうしっかりとした話は出来なかったから、こういう結果でも行きますから、しっかりと認識していかないといけないと思います。その事だけ申し添えておきます。

松田委員 住民投票の結果を受けてですね、町長が合併協を離脱すると、そして、町単独の自立町政を目指していくという方針を述べられている関係については、住民投票の結果として至極、ごもっともな事だと思うんです。さらに、町単独の自立を目指して行くという事について、より、歳入歳出の関係について、見直すに当たって、健全な単独自立を実行するための努力をしていきたい、この事についての考え方としては、私は理解をするんです。ただ、一般質問の際にも申し上げましたが、単独で行くようになったから、財政の縮減関係について真剣に取り組むんだということは、今までどうだったのかという風に言われがちだと思う。だから、60何%以上の人々が単独でという事を望まれたとするならば、自らもより厳しい、議会、財政運営、或いは、今まで以上の負担にも耐え忍ばなければならない事態もあると、いう関係

の呼びかけなり、心構えと言うものを、住民にきっちり意識してもらおうということが、今、当面、一番大事なんではないかなという風に私は思うんです。ところが、先程言われました様に、10年後、20年後、財政シミュレーションではより厳しくなりますよと言っている。ところが町長が、真実のほどは分かりません。報道を見る限りですから、そこでは10年後、20年後には必ず良かったといわれると、その前段について、取崩しというような関係を言われている。食い繋ぎは、10年、20年は出来るが、あと大変だという関係が、シミュレーションで言っている訳ですね。そういう面について、もう少し住民に、これからの選択をされたのですから、厳しい事についても、我々も努力をするが、住民の皆さんも、是非とも協力してもらいたいという、心意気というのは若干、付かなかったのか、報道が悪かったのかどうか、知りませんよ。そういう風な印象を受けたので、今後さらに私どもも含めて、単独町政を目指す、健全な財政の在り方をどうしていくかという事について、真剣に考えて行こうということについて、私は賛成なんです。この際、ここで、もう2つほど、追加して確認をしておきたいのですが、3つ目の関係は、いわゆる現在も行っていますように、広域行政です。いわゆる事務組合をもって、色々やっていますが、例えば、福祉関係では老人の関係であるとか、休日診療の関係であるとか、水質検査の関係であるとか、消防の関係、そういうものがあります。そういう面についての、広域行政については、視野におきながら、連携を取って、今後も進めていくんだという考え方があるとするれば、その面について、今までの一般質問その他の関係で触れておいでになる様に思うのですが、その面については大事なポイントだと思うんです。その面を確認しておきたいのがひとつと、次は、4つ目の問題になるんですが、いずれの選択をするにしてみても、合併というものが、斑鳩町から呼びかけはしないんだと言っておいでになる。この事については、きちっと、あとで何らかの事情、状況などによっては合併と言うものもあり得るといふ風に見るのかどうかということと、それについては町自身からはそういう事は呼びかけていかないと、

あくまでも方針としてはふらふらししないで、1本だけでいくと、他からの町からの呼びかけがあれば、検討するかどうかあるんでしょうけど、むしろ、町からの意思はございませんと、言われている訳です。その辺もきっちり、ここで、合併協を離脱するというだけでなしに、きっちりしておく必要があるのではないかと、この4つの原則をきちんとして、今後、確認した上で、斑鳩町の財政はどうあるべきか、或いは、将来ともに、安心できる基盤というものをどう作っていくか、というところに視点をおいて、一致して、結束して、取り組んでいく必要があるのではないかなど、あとの財政の立て直しその他の関係については、これからの問題として色々議論したらいいと思うんです。先程言われていました、方法論の関係も色々ありますし、我々自身は他に依存するというのではなく、自らがその気持ちになって実現するという努力でないと、第三者にとって、のみであってはいかんという風に思いますから、そういう面について、自らの考え方整理できているという風に思いますから、その4点、初めの2点はわかります。後の2点の関係、この面について、考え方を明確にしておいてほしいと思います。

町 長

広域圏行政につきましては、これからも従来と一緒にやってまいりたい。ただ、広域圏行政の中でも特にやはり以前から言われております、西和試験センター等については、県に移管をしたいというような事も以前からずっと申し上げてきている訳ですが、なかなか県が受け取ってくれませんし、いずれにいたしましても、広域行政の中でも西和試験センター、三室園の関係、休日応急診療所、西和消防組合、いずれにいたしましても、大事なものでございますし、私は広域圏の中でも三室休日応急診療所が広くの方々から喜ばれている現状から考えますと、休日診療所については皆様方から大変評価をいただいているような感じで、ただ、広域圏行政の中で、負担金等の関係、これは交付税が算入されていますが、やはり経費の節減等、十二分に考えながら努力をしていかなければなりません。4つ目の合併の関係につきま

しては、単独という事を申し上げていますから、私の方から一切呼びかけ等を行わない、斑鳩町はこのままずっと、単独で行くという姿勢には変わりございません。以上でございます。

委員長 他にございませんか。

里川委員 私も住民投票の結果を受けて、町長の考え方もお聞きする中で当然であるという風に考えております。我々委員も、今後は、理事者と一体となって、今、松田委員がおっしゃった様に、町民の皆さんにもご理解をいただく中で、町の財政の抜本的な取組み、町長が言われた抜本的な取組みをやられる、それについては我々もきちっと勉強しながら、調査しながら、取り組んでいかなければならないし、また町民の皆さんにご理解いただけるような努力を私達もしていけないといけないという風に考えているところですが、そこで今後、そういう抜本的な取組みをされる中での、住民直に係わる部分とか、住民の方で、言わば条例で制定されているもの以外のものであっても、より議会に対しましてデータを提出していただくというような形を取っていただいて、極力ご相談いただきたい。財政の担当というのは総務委員会が主になるとは思いますが、総務委員会は勿論の事、所管に関わる厚生委員会、建水、こういった所に対しましても、町の姿勢を議会にきちっと、ご相談いただいて、データを示していただいて、本当に私達も一緒に頑張っていかなければならないだろうという風に思っておりますので、議会と、きちっと協議をしていただくという事について、きちっと明言をしておいていただきたいという風に思います。

町長 今、ご質問の様に、議会といつもご相談申し上げておる訳でございますが、より緊密に、色々この間からもご意見あります様に、理事者側は言い放なしと言いますか、議員さんから質問された関係についても、もう少し真剣にという事も言われていますように、我々としてはできるだけオープンにしながら、みんなと相談申し上げて、私は当

初から申し上げています様に、やってきた事の評価というのは、皆さん方される。福祉の切捨てはしないと、当然福祉の問題等についても、だんだんとこれから経費が掛かってくるとしても、他のもので、節約をしながらでも、やはりしていくという気持ち、この事がやはり、斑鳩町については皆様方が喜んでいただけるというのは、今、インフルエンザの関係等についても、斑鳩町が一番先にして、国が交付税を算入されたということもございますが、しかし、この7町の中でも負担金をいただきますよということで、負担金をとられる所もございます。しかし、私は当初の考えから、インフルエンザについては、無料で実施をしてまいりたいということで、今、申し上げます様に、そういう事については他で節減しながらでも、この関係等、皆さん方が喜んでいただけるような行政というのが、やって行く事が当然だろうと思います。お金がないから出来ませんという事には、ならない。やはり行政の、住民が本当に喜んでいただけるような行政をして行く事が一番大事だろうと、そのためにも一生懸命頑張っ参ります。

委員長 他にございませんか。

飯高委員 今回住民の意思がはっきりした訳であります、今町長がその意思尊重という事で、離脱の方向という事で、表明された訳ですが、今までの意見の中で、行財政改革の大綱に基づいて効果的な運営をしていくというのが、本来の事ですが、今回の離脱のきっかけというのが、当然住民投票の正反であった訳ですが、その中でも住民説明会で反対賛成の表明の意見が、縷々あったと思うのです。数にしてみると、2割ですが、反対の方が、しかし、その反対の方の意見というのが、賛成もそうですが、これからずっと町政をやって行く上において、反対の方も同意していただいて、まちづくりに参加していただきたいと、当然、そういう風になる事は当たり前ですが、反対者の意見に対して、町でよく中身を吟味していただければと思う訳です。いずれにしても、今後厳しい財政の状況にあっては、当然、理事者、また議会と一体と

なって、運営して行かなければならないですが、住民の意思をきちっと、吟味してやっていただきたいと思います。

委員長 答弁よろしいですか。

飯高委員 はい。

木澤委員 今回住民投票の結果がこういう形になりまして、町長からも住民の意思を尊重して離脱ということで提案をされておりました、この事につきましては結果から見て、当然の事であるという風に理解はいたしますし、やはり住民の皆さんがそれだけ高い投票率だしていただいた、関心も高かったという事につきましては、今後、単独で運営をして行くに当たっても、住民の皆さんにもしっかりと、その財政運営に関しても関心を持っていただき、十分にやはり、先ほど西谷委員がおっしゃった様に、住民の皆さんにもそういった視点を持ってもらって、地域の声を聞いて行くという姿勢も町も必要だと、大切だと思います。今後、行財政改革につきましては、守るべきところは守っていく、縮減して行くところは縮減して行く町長もおっしゃっていただいておりますが、今後、私議員としてもそういうところに関して住民の皆さんの声を届けられるよう、財政問題につきましてもしっかりと研究をしてもらいたいと考えます。広域行政の事も、先程松田委員がおっしゃっていましたが、今回の色んな資料を見せていただく中で、やはり他町の状況もよく分かり、広域行政の運営、ひとつの市でなかったら出来ないということにはならない、またそういう道を選びました以上は、斑鳩町としても出来るだけリーダーシップを取っていただける、そういう方向で広域行政の運営についても考えていただきたいという事を申し上げまして、私の意見とさせていただきます。

委員長 答弁はよろしいですか。

木澤委員 結構です。

三木委員 私も、今回一般質問でも合併の質問させていただきました。この結果について、11, 122、賛成が3, 082という、この結果については重く感じていますし、今後町長も単独で行くと、1月18日の法定協で恐らく脱退宣言をされるものと思いますが、先程、松田委員からもちよつとありましたように、斑鳩町から他町に合併の話を持っていくということにおいて、斑鳩町からはないならば、他町から話があり、より内容も満足するものであるならば考えられるのかなということも一般質問でも言いましたが、町長の答弁の中で、それはない、単独でいくということなので、それはそれとして確認させていただきます。それと、今回の合併を見ていまして、非常に住民の声で一番多く耳にしたのは、合併のメリット、デメリットということについてもよく分からないと、分からないので、分からないならばこのまま単独で行った方がいいんじゃないかと、分からないまま合併するよりは今のままで行った方がいいんじゃないかという人がかなり、住民投票に行ったのではないかなと。そうすると、当初、法定協で決められた説明会、情報提供というのは、3月だったんです。それが12月5日投票日という、半年以上遅れがあった、その中で住民に対してきっちりとした情報提供が出来なかったと、そういう事の結果も、多少あるのではないかという風に私は分析した訳です。それについては、私は今でも、情報提供が遅れたということについては非常に心残りにはなっております。それと、先程、斑鳩町というのを残す云々について、小野委員からの説明がありまして、私も小委員会から法定協も全部出ている訳です。町名については、17年3月の末まで、各町で決めていいと、その中でも上牧と三郷町は各首長さんのご判断だったと、町名はいらぬというご判断をしているようです。あとの5町については、皆さん帰って考えておいてくださいという話ですが、その中で今回、こういう結果になって、今町長が、勿論、西和市ということは崩れた訳ですが、当然私達も、賛成議員のひとりとして、西和市で、斑鳩町

は残るんですよと言ってきたにもかかわらず、今もそういう風に、斑鳩町がなくなるという、意味合いにして分かるんですよ、頭にこなければいけないと、それについて私も今ひとつ腑に落ちない部分があるんですが、先程答弁なさいました、その件だけ、もう一度お聞かせいただけますか。

町長 先程から小野委員のご質問にもお答えしています様に、私は斑鳩という名前が頭に来るということが一番大事だろうということをお願いしておる訳でございます。

木田委員 私も一般質問の中で、小城町長は来年の11月までの任期です。それによって、今までから、私が心配しているのは、斑鳩町単独でということ、鳩水園ですか、その時に、流域下水の方へ入れてもらうというような形にしようという時に、斑鳩町は単独でやるということによって、公共下水の整備が遅れたことによって、財政をものすごく圧迫している訳です。町長は単独でやるといった以上は、今後の舵取りはちゃんとした方向に持って行ってもらわないと、単独ですと言っても、その結果がそういう鳩水園みたいな事になってしまったら、今の財政を一番圧迫しているのは、公共下水の整備だと思います。だから、そういう事にならないように、ただ口で、単独ですというだけでは、皆さんも納得していただけないと思いますので、その点をしっかりと舵取りをしていただきたいと思いますので、次期、来年11月、その選挙についての決意を聞かせていただきたいと思いますと言ったら、時期が早い事だしということで、聞かせていただけてないのですが、町長はそうして単独ですといった以上、その責任はものすごく重大だと思います。だから、その責任を全うしていただきたいと思いますということを強く、お願い申し上げておきたいと思っております。

委員長 他にございませんか。

森河委員 執行権を持っている方には、干渉したくないです。われわれ、議決と調査というもののしか、権利がないゆえに、執行権を持っておられるところ、先程から皆さんの声をきいているように、十分に調査されて、報告はしてほしいというのが、まず、お願いです。次に、今現在、投票で、反対が1町、賛成が王寺町と斑鳩町、今度の1月に理事者がされるだろうと思うが、その中で、現在まで5日の投票の日から今日まで、町長部局の方で、結果の話とか、そういうのをされた事が現時点であるんですか。投票結果を見て、だいたい、内々ではうちがこうだったから、こうしようじゃないかというような話は行政の方ではあったかなというのがひとつなんです、その点どうですか。

総務部長 投票の結果が出て以来、我々といたしましても、幹事会でもまだ決まりはございませんし、町間で町の考え方を申し上げたことはございません。

森河委員 私は、各施設のものは協力に仲良くして行こうというのが、我々でも、せつかく今までに出来た施設、7町でやっていくものが当然していかなければならないだろうが、結果、1万1千という結果が出たということは、住民に大きく賛成だと、色々な結果あるだろうが、それは別としても、合併には反対だという事が出ているんだから、それに伴って、執行権を持っておられる理事者側が、こういう具合にしていこうかというような話はされてもいいと思う。ということは、平群はああいう結果だったが、その事をしてほしい。結果が出ているんだから、他町がこういう風な方法が出ているということ、ちょっと聞いたかった。斑鳩町の事ははっきり出ているんだから、合併は反対だというのが出ているんだから、そういう点で、次に理事者も考えて、方法を取ってきてほしいという事を要望しておく。今、要望よりも、そういう風に出来る手があれば。

総務部長 それぞれ、各町で、町側と議会側と両方が話をされて、進めて行か

れるということが、どのような時点で話をされておるのかということ
は分からない訳ですが、いずれにいたしましても、1月18日には合
併協議会を開催されるという運びになっておりますので、その際には
各町の意見がそれぞれ纏められた結果として出てくるのではないかと
考えております。

委員長 他にございませんか。

嶋田委員 ただ今の町長の表明で、住民投票の結果で表明された事については
了としたいと思いますが、行政側は勿論ですが、議会も、色んな意味
で、これからより真剣に考えて行かなければならない、財政問題等
について考えて行かなければならないとは思いますが、住民の方にも負
担は分かち合ってもらおうと、そういう風な事も十分承知していただく
という風な努力もお願いしたいと思えます。

委員長 他にございませんか。

ないようでございますので、町長から合併について見解を述べてい
ただきました。町議会として了承するという事によろしいか。

(異議なし)

委員長 異議なしと認めます。町長には合併協議会において、その旨報告を
していただけたと思いますので、よろしくお願いを致しておきます。

委員長 次に、今後の事務手続き等について説明を求めておきたいと思いま
す。理事者の方から説明願えますか。

企画財政 今後の手続き等という事でございます。

課長 まず、斑鳩町としましては合併協議会に向けて、合併協議会脱退の
意思表示をしてまいりたいと思っております。

その後の合併協議会についてという事でございますが、基本的にはこれから、7町の間で協議をして決めて行くと、来週の22日、合併協議会の幹事会がございます。24日には広域圏協議会が予定されております。そういった中で、合併協議会を廃止するのか、或いは、7町の内々の幾つかの町での合併協議会を存続させるのか、或いは、来年1月18日に第16回合併協議会が予定されておまして、そちらの方にどのような提案をしてもらうのかという、そういった事がこれから7町で協議し、決めて行く事になるだろうと思います。いずれにいたしましても、最終的には地方自治法の第252条の6の規定、これは協議会の組織の変更及び廃止に関する規定でございますが、これに定めるところによりまして、合併協議会設置の際にも7町の議会にそれぞれ議決をいただいたと、それと同じ手続きでございます。この合併協議会の組織の変更或いは廃止については、議会にご提案を申し上げさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

委員長 ありがとうございます。ただ今の報告につきまして、質疑意見等がございましたら、お受けしてまいりたいと思います。

(質疑なし)

委員長 本日は質疑・意見等をお受けし、一定の審議を行ったということと終わりたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長 次に、その他について委員の方から質疑、意見等あればお受けしてまいります。

西谷委員 先程の議論の中で、小野委員から私は議員失格だという言葉が言われて、このままでおいておくというのはどうかと思いますので、私は

反論として、議員失格と同僚議員から別に言われる筋合いのものでもないし、議員失格かどうかというのは、毎回、住民の方々が選挙によって選ばれるものだと思いますので、反論という形で議事録に載せていただきたいと思います。

小野委員 議員失格という言葉を使ったという事に対しては、私は、これは侮辱に当たりますので、削除をお願いします。議員失格といったのなら、それは言い過ぎです、削除願います。

委員長 削除するのですか。

小野委員 お願いします。

委員長 委員長にお任せ願いますか。

(異議なし)

委員長 他にありませんか。

他に質疑ご意見等がなければ、その他についてもこれをもって終了いたします。

なお、本日の委員会報告のまとめにつきましては、正副委員長にご一任いただきたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ありがとうございます。

それでは、閉会にあたり町長の挨拶をお受け致します。

(町長挨拶)

委員長

これをもって、市町村合併調査研究特別委員会を閉会いたします。
ありがとうございました。

(午前10時00分 閉会)